

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	動物園管理運営事業費	担当所属	動物園
		連絡先	22-8640

【事務事業基本情報】

分野	7産業・観光	事業期間	～ 永年
基本施策	10観光・コンベンション等による交流の推進	会計種別	一般会計
推進施策	(3)魅力ある動物園の推進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	徳山動物園全般
	意図	周南市最大の情報発信・交流拠点として、動物園に市内外から多くの来園者を迎える体制を確保することで、その役割を果たすことができる。
	成果	動物園を交流拠点施設として、また、社会教育施設として、管理運営することにより、交流人口の拡大や市民のレクリエーション機能の充実を図ることができるとともに、動物を通じて、自然環境に対する見識の向上を図る。
	手段	【事業概要】動物園を交流拠点施設として、また、社会教育施設として、管理運営を図る。 【主な内容】入園者の受付、駐車場の整理、予算管理執行、開園のための勤務体制の確保、施設の維持・保守点検、事業を告知するための広告宣伝、入園料収入以外の財源の確保

【指標の推移】

	指標名	単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込	
指標①	徳山動物園の入園者数	目標値	人	300000	320000	360000	210000
		実績値	人	282505	280542	268607	-
		目標達成度	%	94.17	87.67	74.61	-
指標②		目標値					
		実績値				-	
		目標達成度	%				-

指標の増減維持理由

平成31年度は、4月にゾウ舎がオープンしたが、天候不順や新型コロナの影響で、来園者が微減となっている。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算	
トータルコスト	千円	101,521	92,224	98,861	104,087	115,198	
事業費	千円	79,027	64,373	74,552	80,053	94,359	
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	
	受益者負担	千円	26,295	33,264	51,181	51,493	66,234
	その他	千円	0	0	0	0	0
一般財源	千円	52,732	31,109	23,371	28,560	28,125	
人件費合計	千円	22,494	27,851	24,309	24,034	20,839	
正職員	千円	22,494	27,851	24,309	24,034	20,839	
人員	人	3.070	3.780	3.310	3.310	2.870	

【環境変化等】

開始時の周辺環境	徳山動物園は、旧徳山市の市制施行25周年を記念して昭和35年3月20日に開園 50000㎡の園内に120種560頭の動物を展示（令和2年4月末現在）
現状の周辺環境	平成25年に動物園のリニューアル事業工事に着手し、平成28年3月周南の里ふれあいゾーン、平成29年10月自然学習館、野鳥観察所、平成30年8月ペンギンプール、噴水広場、平成31年4月ゾウ舎と順次オープンしている。
今後の予想される周辺環境	動物園リニューアル事業は、近年の市の財政状況や計画策定時からの環境変化等を踏まえ、全体事業費や事業期間の精査が必要なことから、今後基本計画を再検討し、基本設計に進めていく。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）		
評価	A	妥当である
市の交流拠点施設として、動物園は重要な施設であり、動物を通じた環境学習の拠点施設である。		
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）		
評価	A	妥当である
適切に動物園を管理運営していく必要がある。		
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）		
評価	A	妥当である
動物園に多くの方の来園をいただくことで、目的を達成することができる。		
【有効性評価】 4. 計画の実施状況		
評価	A	実施できた
1年間事故無く管理運営ができています。		
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度		
評価	B	概ね達成できた
平成31年度は、豪雨、新型コロナなどの影響を受け、入園者数は対前年微減となっている。		
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度		
評価	B	概ね貢献できた
平成31年度の入園者数は、対前年微減にとどまっている。		
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		
評価	A	向上余地はない
平成25年度から動物園リニューアル事業に着手し、計画的に新しい施設がオープンしており、今後の入園者数増加に寄与するものと考えている。		
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み		
評価	A	削減余地はない
維持経費等毎年削減しており、これ以上の削減は難しいと考える。		
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討		
評価	A	類似事業はない
【効率性評価】 10. これまでの実施手段		
評価	B	見直す余地がある（ICTの利活用により見直しの余地あり）
会計年度任用職員制度が始まり、駐車場管理業務はこれまでの直営から、業務委託に見直しを図った。		

【総合評価】		
評価	A	動物園管理運営業務については、安心安全を第一に運営を行っている。今後、窓口業務の見直しを検討していく。

【改革案】

今後の実施方向性 維持		期待効果		
動物園は、市内における重要な交流拠点施設であるとともに、「いのちの博物館」として、種の保存、環境教育等の重要な役割を担っており、今後も、適切に管理運営をしていくことが必要である。		コスト		
		削減	維持	増大
成果	上昇			
	維持		○	
縮小				
改革効果（どのような効果が期待できるか）				
動物園の魅力向上、入園者数増につなげていく。				

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	動物園教育普及事業費	担当所属	動物園
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	7産業・観光	事業期間	～ 永年
基本施策	10観光・コンベンション等による交流の推進	会計種別	一般会計
推進施策	(3) 魅力ある動物園の推進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	徳山動物園に来園された方、また、徳山動物園の情報を受け取った方
	意図	動物園に来園された方などに、動物の情報などに興味を持っていただき、豊かで文化的な市民生活に資するもの
	成果	教育イベントに12,500人を超える参加を得ることができており、一定の成果があったと考えている。
	手段	教育イベントやコンクールの実施、各種解説の表示などで、入園者が動物の環境などについて考えていただく。

【指標の推移】

指標名		単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込
指標①	教育イベントの延べ参加者数等	目標値	人	15000	15000	15000
		実績値	人	15322	15358	12557
		目標達成度	%	102.15	102.39	83.71
指標②		目標値				
		実績値				-
		目標達成度	%			

指標の増減維持理由

平成31年度実績は、新型コロナウイルスの影響で、自粛休園（令和2年3月）したため、実績値が減少している。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算	
トータルコスト	千円	27,608	19,962	22,563	21,653	8,077	
事業費	千円	718	1,321	825	887	816	
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	
	受益者負担	千円	718	1,321	825	887	816
	その他	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	0	0	0	0	0
人件費合計	千円	26,890	18,641	21,738	21,382	7,589	
正職員	千円	26,890	18,641	21,738	20,766	7,261	
人員	人	3,670	2,530	2,960	2,860	1,000	

【環境変化等】

開始時の周辺環境	昭和35年の開園時から動物画コンクールを県下3園館で実施
現状の周辺環境	動物画コンクールなどの教育的事業に加え、学校との連携の中での総合学習や職場体験など、体験型の学びも求められている。
今後の予想される周辺環境	今後は、「環境の大切さや命の尊さに気付く機会となる」特色ある事業の提供を行い、体験型から参加型へとニーズを拡げ、動物を通じた環境学習を提供していくことが必要である。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）		
評価	A	妥当である
動物園を管理運営している市として、動物を通じた環境学習を提供していくことは重要であり、使命である。		
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）		
評価	A	妥当である
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）		
評価	A	妥当である
【有効性評価】 4. 計画の実施状況		
評価	A	実施できた
動物画コンクールや展示館企画展示など年間を通じて教育イベントを実施している。		
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度		
評価	B	概ね達成できた
教育イベントに12,500人を超える参加者を得ることができている。		
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度		
評価	A	貢献できた
教育的なイベントへのニーズにこたえることで、動物園の魅力アップに貢献している。		
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		
評価	B	向上余地が考えられる（中小程度）
コロナなどの状況の中で、デジタル的な利用形態への対応が必要になる。		
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み		
評価	A	削減余地はない
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討		
評価	A	類似事業はない
【効率性評価】 10. これまでの実施手段		
評価	A	最適である

【総合評価】		
評価	A	動物園は、「いのちの博物館」であり、動物を通して、「自然環境」や「いのち」について学ぶ場であることが大切である。

【改革案】

今後の実施方向性 維持		期待効果		
動物園は、「いのちの博物館」という使命をもって、今後も教育普及活動に取り組んでいく。			コスト	
			削減	維持
成果	上昇			
	維持 縮小		○	
改革効果（どのような効果が期待できるか）				
アフターコロナの社会変化に応じたプログラムの形態や、情報提供の手段について広く検討が必要である。特に、学校に普及したタブレット端末を利用した新しいサービスの方法について、検討が急務となっている。				

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	動物園飼育事業費	担当所属	動物園
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	7産業・観光	事業期間	～ 永年
基本施策	10観光・コンベンション等による交流の推進	会計種別	一般会計
推進施策	(3)魅力ある動物園の推進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	徳山動物園の飼育動物
	意図	展示動物を適切に飼育管理し、また繁殖、調達することで、継続的な動物園業務の実現を図るもの。
	成果	令和2年3月末現在で、109種556点の動物を飼育展示しており、入園者が観察することができている。
	手段	適正な飼育環境を維持し、必要な飼料を準備する。適切な検査、診療を行い、飼育技術の向上のために情報を収集し研究する。

【指標の推移】

	指標名	単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込
指標①	繁殖推進種繁殖率	目標値	%	30	30	30
		実績値	%	30	45	45
		目標達成度	%	100.00	150.00	150.00
指標②		目標値				
		実績値				-
		目標達成度	%			

指標の増減維持理由

徳山動物園において、繁殖しても継続して飼育を続けられる種のうち、繁殖させることが可能な状況にある種、及び、新規に個体を導入して繁殖を行う種として選定した、11の繁殖推進種のうち、インドタテガミヤマアラシ、マンドリル、オシドリ、インドホシガメ、アルマジロカゲで繁殖に成功した。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算	
トータルコスト	千円	94,357	104,448	110,915	110,992	117,190	
事業費	千円	32,444	31,947	31,453	31,048	32,890	
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	
	受益者負担	千円	32,444	31,947	31,453	31,048	32,691
	その他	千円	0	0	0	0	199
一般財源	千円	0	0	0	0	0	
人件費合計	千円	66,317	75,768	79,462	83,985	95,069	
正職員	千円	61,913	72,501	79,462	79,944	84,300	
人員	人	8.450	9.840	10.820	11.010	11.610	

【環境変化等】

開始時の周辺環境	昭和35年3月に80種350点の展示動物で徳山動物園が開園した。
現状の周辺環境	動物園開園後、昭和46年には192種837点の展示動物を飼育、昭和58年には903点と展示動物が増加したが、その後減少し、平成31年度末現在、109種556点の展示動物を飼育している。
今後の予想される周辺環境	野生動物保護の観点から、動物の輸入は年々厳しくなっている。動物の購入・導入については、ブリーディングローンの適切な運用などで、機会をとらえた動物の確保を進めていく必要がある。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）		
評価		継続的な動物園業務の実現を図るため、展示動物の適切な飼育管理は必要である。
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）		
評価	A	妥当である 継続的な動物園業務の実現を図るため、展示動物の適切な飼育管理は必要である。
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）		
評価	A	妥当である 継続的な動物園業務の実現のため、また、動物園の大きな役割の一つである「種の保存」という観点からも妥当と考える。
【有効性評価】 4. 計画の実施状況		
評価	A	実施できた
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度		
評価	A	達成できた
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度		
評価	A	貢献できた
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		
評価	A	向上余地はない
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み		
評価	A	削減余地はない
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討		
評価	A	類似事業はない
【効率性評価】 10. これまでの実施手段		
評価	A	最適である

【総合評価】		
評価	A	動物園の役割の重要な要素に、種の保存があり、動物園内で適切な飼育を実施し、繁殖を促していくことが重要であり、継続していく。

【改革案】

今後の実施方向性 維持		期待効果		
動物園の大事な役割の一つである「種の保存」を実現していくため、今後も適切な飼育を行い、繁殖を促していくことが重要である。		コスト		
		削減	維持	増大
成果	上昇			
	維持		○	
	縮小			
改革効果（どのような効果が期待できるか）				

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	動物園魅力拡大「ズー夢アップ21」実施事業費	担当所属	動物園
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	7産業・観光	事業期間	平成17年度～
基本施策	10観光・コンベンション等による交流の推進	会計種別	一般会計
推進施策	(3)魅力ある動物園の推進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	徳山動物園に来園された方、また、徳山動物園の情報を受け取った方
	意図	常に動物園から情報を発信し、身近な存在として感じていただくことで、動物園の魅力を向上させるもの。
	成果	多くの入園者の集客につながる効果的な情報を発信し、また、園内では、ふれあい体験などを通じて、観る動物園から、体験する動物園としての魅力向上に寄与している。
	手段	動物園に関する情報を発信し、多くの人々に楽しく興味深い企画開発を展開する。

【指標の推移】

	指標名	単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込
指標①	各体験などの利用者数	目標値	人	220000	250000	250000
		実績値	人	274265	248887	225839
		目標達成度	%	124.67	99.55	90.34
指標②		目標値				
		実績値				-
		目標達成度	%			

指標の増減維持理由

平成31年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、休園（令和2年3月）したため、体験プログラム実績も目標を下回る結果となっている。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算	
トータルコスト	千円	40,669	54,514	46,824	44,170	75,121	
事業費	千円	13,779	14,727	14,217	14,400	20,086	
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	1,444	
	地方債	千円	0	0	0	0	
	受益者負担	千円	7,524	14,727	14,217	14,400	6,661
	その他	千円	0	0	0	0	11,981
	一般財源	千円	6,255	0	0	0	0
人件費合計	千円	36,287	48,330	32,607	38,903	55,035	
正職員	千円	26,890	39,787	32,607	29,770	48,286	
人員	人	3,670	5,400	4,440	4,100	6,650	

【環境変化等】

開始時の周辺環境	「見るだけ」の動物園から「ふれあう、体験する」という新しい形の動物園運営につなげるために、体験をベースにした事業を展開している。
現状の周辺環境	動物園リニューアル事業により、平成28年には周南の里エリア ふれあいゾーン「るんちゃ♪るんちゃ」がオープンし、多様な体験プログラムを展開している。
今後の予想される周辺環境	動物園リニューアル事業の進展に合わせ、「インタープリティブデザイン」を活かした新たなプログラムを開発展開し、入園者数の増加、環境学習の拠点化を目指す。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）		
評価	A	妥当である
動物園の魅力向上を図り、本市の主要な交流拠点施設としての役割を果たしていく。		
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）		
評価	A	妥当である
周南市の主要な交流拠点として、動物園の魅力向上を図ることは必要である。		
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）		
評価	A	妥当である
【有効性評価】 4. 計画の実施状況		
評価	A	実施できた
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度		
評価	B	概ね達成できた
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度		
評価	A	貢献できた
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		
評価	A	向上余地はない
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み		
評価	A	削減余地はない
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討		
評価	A	類似事業はない
【効率性評価】 10. これまでの実施手段		
評価	A	最適である

【総合評価】		
評価	A	動物園は、博物館的比較展示等から行動展示や体験展示へと移りつつあり、来園者にも「見る」だけから「ふれあう、体験する」というニーズが高まってきており、このようなニーズに対応していく必要がある。

【改革案】

今後の実施方向性 維持		期待効果		
動物園来園者には、「見る」だけでなく、「ふれあう、体験する」というニーズの高まりがあり、こうしたことに動物園も対応し、来園者の増加につなげていきたい。		コスト		
		削減	維持	増大
成果	上昇			
	維持 縮小		○	
改革効果（どのような効果が期待できるか）				
動物園の魅力向上に寄与する。				

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	動物園リニューアル事業費	担当所属	動物園
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	7産業・観光	事業期間	平成20年度 ~ 令和 9年度
基本施策	10観光・コンベンション等による交流の推進	会計種別	一般会計
推進施策	(3) 魅力ある動物園の推進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	動物園施設全般
	意図	動物園の全面リニューアルを計画的に進め、魅力向上による来園者数の増加を図るとともに、「まちなか動物園」として中心市街地との連携を図り、交流人口の拡大や「まち」の活性化につなげる。
	成果	リニューアルの第1弾として北園において平成28年3月21日に「るんちゃ♪るんちゃ」がオープンし、平成29年10月1日に自然学習館「ねいちゃる」・野鳥観察所、平成30年8月5日にペンギンプール・ふんすい広場が順次オープンした。南園においては平成31年4月26日にゾウ舎がオープンし、動物園の魅力向上とともに事業の進捗が図られた。
	手段	老朽化が進む動物園の全面リニューアルを計画的に行い、動物、人、環境にやさしい動物園として整備していく。

【指標の推移】

	指標名	単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込	
指標①	整備進捗率(面積ベース)	目標値	%	21.8	27.8	35.7	43.8
		実績値	%	21.8	27.8	35.7	-
		目標達成度	%	100.00	100.00	100.00	-
指標②		目標値					
		実績値				-	
		目標達成度	%				-

指標の増減維持理由

H31年度実績においては、リニューアル事業計画どおり事業を推進している。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算	
トータルコスト	千円	436,531	592,924	778,181	172,413	633,559	
事業費	千円	434,040	584,893	770,029	163,918	605,459	
特定財源	国庫支出金	千円	186,370	360,883	306,723	39,454	274,437
	県支出金	千円	0	0	0	0	0
	地方債	千円	173,100	173,900	363,600	75,200	230,600
	受益者負担	千円	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	74,570	50,110	99,706	49,264	100,422
人件費合計	千円	2,491	8,031	8,152	8,495	28,100	
正職員	千円	2,491	8,031	8,152	8,495	28,100	
人員	人	0.340	1.090	1.110	1.170	3.870	

【環境変化等】

開始時の周辺環境	昭和35年3月に開園した徳山動物園は、園内施設の老朽化が著しく、また、展示方法が利用者ニーズや動物園としての使命等に適合しなくなってきたことから、動物園の全面リニューアルを進める必要がある。
現状の周辺環境	平成20年度に「徳山動物園リニューアルFS調査」を実施、平成21年度に「徳山動物園リニューアル基本計画」を策定し、平成25年度から工事に着手している。
今後の予想される周辺環境	近年の市の財政状況や計画策定時からの環境変化等を踏まえ、全体事業費や事業期間の見直しが必要なことから、基本計画の見直しを行い、適切な事業進捗を図る。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）		
評価	A	妥当である
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）		
評価	A	妥当である
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）		
評価	A	妥当である
【有効性評価】 4. 計画の実施状況		
評価	A	実施できた
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度		
評価	A	達成できた
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度		
評価	A	貢献できた
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		
評価	A	向上余地はない
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み		
評価	A	削減余地はない
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討		
評価	A	類似事業はない
【効率性評価】 10. これまでの実施手段		
評価	A	最適である

【総合評価】		
評価	A	動物園リニューアル事業は、平成21年度に基本計画を策定し、平成25年度の工事着手以降、順次整備を進めている。

【改革案】

今後の実施方向性 維持		期待効果			
動物園リニューアル事業は、平成25年度の工事着手以降、順次整備を進めている。計画策定時からの環境変化等を踏まえ、基本計画の見直しを行い、事業期間等の精査をしていくこととしている。		成果	コスト		
			削減	維持	増大
改革効果（どのような効果が期待できるか） 動物園の魅力向上のために事業の進捗を図っていく。		上昇 維持 縮小		○	

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	基金管理事業費 (ぞうさんの夢基金)	担当所属	動物園
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	7産業・観光	事業期間	平成24年度 ~
基本施策	10観光・コンベンション等による交流の推進	会計種別	一般会計
推進施策	(3) 魅力ある動物園の推進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	「ぞうさんの夢基金」の趣旨に賛同いただける市内外の方
	意図	動物園運営に関して市民等からの財政的支援と、動物購入時における経費の平準化を図る。
	成果	
	手段	事業のPRを含めて園内等に募金箱を設置し、募金を募り、「ぞうさんの夢基金」へ積み立てる。

【指標の推移】

指標名		単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込	
指標①	ぞうさんの夢基金	目標値	千円	5000	3000	3000	3000
		実績値	千円	6433	10131	5098	-
		目標達成度	%	128.66	337.70	169.93	-
指標②		目標値					
		実績値				-	
		目標達成度	%				-

指標の増減維持理由

--	--	--	--	--	--	--

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算	
トータルコスト	千円	857	2,420	4,139	5,534	638	
事業費	千円	564	1,978	3,698	5,098	202	
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	その他	千円	564	1,978	3,698	5,098	202
	一般財源	千円	0	0	0	0	0
人件費合計	千円	293	442	441	436	436	
正職員	千円	293	442	441	436	436	
人員	人	0.040	0.060	0.060	0.060	0.060	

【環境変化等】

開始時の周辺環境	平成24年徳山商工会議所青年部による「ぞうさんプロジェクト」の立ち上げを受け、ゾウ導入のための募金活動が開始され、市は「ぞうさんの夢基金条例」を制定
現状の周辺環境	事業のPRを含めて園内等に募金箱を設置し、募金を募っている。
今後の予想される周辺環境	徳山動物園の積極的なPRに合わせて、「ぞうさんの夢基金」の趣旨についてもしっかりとPRし、事業の賛同者を増加していく必要がある。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）		
評価	A	妥当である
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）		
評価	A	妥当である
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）		
評価	A	妥当である
【有効性評価】 4. 計画の実施状況		
評価	A	実施できた
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度		
評価	A	達成できた
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度		
評価	A	貢献できた
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		
評価	A	向上余地はない
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み		
評価	A	削減余地はない
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討		
評価	A	類似事業はない
【効率性評価】 10. これまでの実施手段		
評価	A	最適である

【総合評価】		
評価	A	基金は、新たに動物を導入するにあたり、財源確保を図る体制を整えるものであり、今後も継続して取り組んでいく。

【改革案】

今後の実施方向性 維持		期待効果		
基金は、動物を導入するにあたり、財源確保を図るためのものであり、今後もPRをしっかりと行い、継続して行く必要がある。		コスト		
		削減	維持	増大
成果	上昇			
	維持		○	
	縮小			
改革効果（どのような効果が期待できるか）				